



macOS

初心者のためのTahoe アップグレードガイド

An iMac monitor is shown against a background of abstract blue and green shapes. The screen displays a white rectangular box with Japanese text. The text is centered and reads: 'macOSの最新バージョンがリリースされました。' followed by a paragraph explaining that Apple releases major macOS updates annually to support IT and security departments without disrupting business or productivity, and that they aim to support users in utilizing new systems and features.

macOSの最新バージョンが リリースされました。

AppleはmacOSのメジャーアップデートを毎年リリースしています。IT・セキュリティ部門には、日々の業務や生産性を損なうことなく、エンドユーザーが新しいシステムとその機能を活用できるよう支援することが求められます。

Appleのアップグレードの特徴

他のオペレーティングシステム (OS) とは異なり、AppleはOSの大型リリース (別名「アップグレード」) を1年に一度行います。これには、macOS、iPadOS、iOS、tvOS、watchOS、visionOSが含まれます。

デバイスのOSを古いままにしておくと、一貫性、セキュリティ、およびユーザエクスペリエンスが損なわれる可能性があります。IT部門がさまざまな種類のデバイスや複数の地域をサポートしなければならない場合、デバイスを簡単かつ速やかにアップグレードすることがさらに重要になります。

プロセスがシンプルなこと、そして無償で行えることにより、AppleのOSのアップグレードは業界トップレベルの導入率を誇ります。エンドユーザーは新機能の利用を楽しみにしていますが、IT管理者には常にセキュリティ対策と正確なシステム資産の管理が求められます。

多くのITチームが認識しているとおり、これは決して容易なことではありません。特に、ユーザの期待に応えるスピードでアップグレードを行うのは、大きな負担となる場合があります。ですが、ここで朗報です。

20年以上にわたるAppleとパートナーシップを活かし、JamfはApple製品のアップグレードを成功させるための詳細なガイドを提供しています。今回が初めてのアップグレードであっても、経験豊富な管理者が復習として活用したい場合でも、安心してご利用いただけます。

新しいOSがリリースされたら直ちにデバイスをアップデートすべき主な理由として、以下の4点が挙げられます。

1. セキュリティの脆弱性の低減
2. 素晴らしいユーザエクスペリエンスの維持
3. ユーザの生産性の維持
4. 最新のIT管理機能へのアクセス

このガイドでは、最新のmacOSへのアップグレードを準備および実行する方法について詳しく説明します。さらに、業務への影響や予期せぬダウンタイムを防ぎつつ、macOS Tahoe へのアップグレードを通じてユーザを支援し、組織に貢献するための知識が得られます。

ベータ版での検証

AppleSeed for ITが提供する次期リリースのプレビューを利用すると、最新のOSバージョンや機能が組織にどのような影響を与えるかについていち早く知ることができます。

ベータプログラムに参加することで、正式なリリースの数ヶ月前に検証を始めることができます。Appleは、macOS、iPadOS、iOS、tvOS、watchOS、visionOS向けに、有償の開発者向けプログラムと、無償のパブリックベータプログラムを提供しています。

ベータプログラムに参加すべき理由

1. **Apple OSのベータプログラムは通常、複数のフェーズから構成されます。**初期段階から参加し、Appleにフィードバックを提出することで、組織に大きな影響を与える可能性のある問題がリリース前に解決する可能性が高まります。また、Appleにフィードバックを送信する際に「フィードバックアシスタント」Appを使用することで、対応の進捗状況や修正が反映される可能性のあるOSバージョンなどを確認することができます。
2. **ベータプログラムに参加することで、新機能や互換性のテストをいち早く行えるだけでなく、ユーザエクスペリエンスにどのような影響があるのかについて理解を深めることができます。**新たに追加された設定、移動した機能、名称の変更などが把握できるので、トレーニング素材やオリエンテーション資料などを更新する際に役立ちます。このようにしてユーザエクスペリエンスの変化に備えることで、ユーザに配慮したサポートモデルやコミュニケーションプランを用意することができます。
3. **最後に、新たなOSの設定や機能だけではなく、アプリケーション、インフラ、管理やセキュリティとの互換性を事前に検証することが、現在の環境で使用されているソフトウェアを引き続き使用するにあたって不可欠です。**Appleが提供するベータ版を試用し、導入されたアプリに問題がないか検証することをお勧めします。Appleは、ベータ版OSがさまざまな組織の環境においてどのように動作するかを検証するためのテストプランを豊富に用意しています。

[Appleのベータプログラム](#)には、無料でいつでも参加できます。将来のOSテストに備えて、早期の情報取得や検証準備に役立つメリットが得られます。品質とユーザビリティに関するフィードバックは、Appleが問題を特定および修正し、ソフトウェアをユーザにとってより良いものにする上で役立ちます。

検証

最良の結果を得るために、またアップグレードがエンドユーザのワークフローに予期せぬ影響を与えることのないように、以下をはじめとする技術スタック全体の検証をお勧めします。

1 インフラ

VPNやプリンタドライバなど、アプリケーションスタック以外のものは必ず最新OSで検証する必要があります。クラウドホスティングサービスに移行しつつある組織は、このステップがあまり重要でない場合もあります。

2 アプリケーション

これにはウェブベースのものと、そうでないものが含まれます。すべてのアプリケーションを検証する時間がない場合は、互換性に関するベンダーの声明に基づいて優先順位を決定します。Appleは現在、カーネル拡張機能のサポートを停止し、代わりにシステム拡張のフレームワークを採用しています。Appleのシステム拡張機能への対応については、ご利用のモバイルデバイス管理 (MDM) ベンダーにお問い合わせください。

3 デバイス管理

これにはデバイス導入と管理のソリューション (MDM、EMM、UEMなど) が含まれます。お使いのデバイス管理ソリューションで最新OSの管理機能や制限などを検証できるかどうか確認してください。

4 セキュリティ

これには、アイデンティティとアクセス、エンドポイント保護、脅威防御、コンテンツフィルタリングが含まれます。前述の管理ソリューションと同様に、お使いのセキュリティソリューションに新たなセキュリティ機能を検証する機能が備わっているかどうかを確認しましょう。

検証の優先 順位の決定

多くの組織では複数のアプリケーションが業務に使用されています。チームによってまったく異なるデバイスの使い方をしているためです。アプリケーションの検証を成功させるには、まず優先順位を決めることが大切です。

アプリケーションの重要度に基づいて検証の優先順位を高・中・低の3段階にランク付けする方法や、アプリの使用状況から優先順位を決める方法があります。優先順位の決め方と分類が決まったら、検証を行ってくれる志願者を各部署（例：開発、マーケティング、財務など）から募り、日常業務での使い心地や物事がスムーズに進むかどうかを確認します。



macOS Tahoe へのア ップグレード

Macでアップグレードを実施するにはいくつかの方法があります。アップグレードを行うことを決めたら、まず環境内のMacをどのようにアップグレードするかを決めなければなりません。



ブループリントを使用すると、Appleデバイスの管理を簡素化できます。ブループリントでは宣言型デバイス管理 (DDM) プロトコルを利用し、体系的なワークフローでMacのアップグレードを実行できます。複数の手順が1つのプロセスにまとめられているので、複雑な導入も手間なく進められます。

ブループリントの使い方はシンプルで、IT管理者がブループリントを作成し、対象のコンピュータとOSバージョンを定義し、インストールのオプションを選んで、ユーザ環境を構成するだけです。前述のとおりブループリントはDDMを利用しているので、Macからアップデートの進捗状況が積極的かつ自動的にJamf Proにフィードバックされます。

今回のmacOS Tahoeへのアップグレードのように、OSのメジャーアップグレードを行う場合、ソフトウェアアップデート宣言を利用して都合の良い日時に自動でアップデートが行われるよう設定することをお勧めします。

なお、ブループリントのご利用には、Jamf for K12、Jamf for Mac、Jamf for Mobile、またはJamf Premium Cloudが必要です。

[ブループリントを使ってmacOSアップグレードやアップデートを導入する方法について知りたい方はこちらをご覧ください。](#)

宣言型デバイス管理による管理対象ソフトウェアアップデート

Jamf Cloudでは、DDMによる管理対象ソフトウェアアップデート機能を使って、アップグレードのダウンロードやスケジュールを設定することができ、Jamf Pro経由で特定のデバイスグループに対してアップデートのバージョンや期限を簡単に指定することができます。

アップデートの詳細が定義されたら、macOSが適用の期限やアップデートに関する通知やリマインダーをエンドユーザーに送信します。また、アップデートの進捗状況も自律的かつ自動的にJamf Proにフィードバックされます。

アップグレードのダウンロードおよびインストール予約を設定するには、macOS 14以降が必要です。Jamf Cloudカスタマーのみご利用いただけます。

[Jamf Proを使ってmacOSアップグレードやアップデートを導入する方法について知りたい方はこちらをご覧ください。](#)



macOS Tahoeへのア ップグレード



OSアップグレードのオプション

以下のいずれのオプションを選択する場合でも、macOSのコンテンツキャッシュサービスを使用してネットワーク使用量を減らすことをお勧めします。これにより、アップグレードのダウンロードスピードが向上します。

Mass Action (一括処理) コマンドの送信によるアップデート

このコマンドを使用すると、監視対象、またはJamf ProのPreStage Enrollment (事前登録) で登録された個々のコンピュータまたはコンピュータのグループを一斉にアップグレードすることができます。

注意: Appleシリコンを搭載したコンピュータでは、Bootstrap TokenがJamf Proにエスクローされている場合、アップデートの認証にユーザの操作は不要です。Jamfではこの方法を推奨しています。

macOSインストーラのパッケージ化によるOSインストール

アップグレードプロセスを自動化したい場合、macOSインストーラをパッケージ化して自動的にインストールする方法と、Self Service経由でユーザにインストールしてもらう方法があります。さらに、スクリプトを使ってユーザエクスペリエンスをカスタマイズすることもできます。macOSの大型アップデートがリリースされた際にはこの方法を推奨します。詳しくは、こちらの[ヘルプページ](#)をご覧ください。

注意: Jamfでは、Appleシリコンを搭載したコンピュータにmacOSの大型アップデートをインストールする際には「ダウンロードとインストール」コマンドを使用することを推奨しています。

macOS Tahoeへのア ップグレード



macOSアップグレードに伴うデータ消去

アップグレードの際にMac上の既存のデータを消去する場合は、前ページのオプションを選択する代わりに、以下の方法でアップグレードすることが可能です。

--eraseinstallコマンドを使うと、macOSのインストールと同時にハードドライブを消去することができます。macOS Tahoeのインストーラをダウンロードし、MDMソリューション経由でアップロードするだけで完了します。macOS Tahoeは、以下の方法でポリシーを使って導入することができます。

1. **Macクライアントにインストーラを用意する**
2. **startosinstallコマンドの--eraseinstallフラグを実行する**
3. **インストールを自動またはSelf Service経由で開始**

注意：Appleシリコンが搭載されたデバイスでstartosinstallコマンドとmacOSインストーラアプリを使用する場合はユーザ認証が必要です。

アップグレード の準備ができ ていない場合



いつアップグレードする場合でも、その当日からセキュリティが確保されます

構成プロファイルに新しく追加された RecommendationCadence キーにより、アップデートの選択肢がさらに増えました。

リリース直後に macOS Tahoe にアップデートすることで、ユーザは最新の機能やセキュリティ設定をすぐに利用できるようになります。

これ自体は素晴らしいことですが、現場に新しい OS を展開する準備ができておらず、もう少し時間が必要な場合もあります。全面的なアップデートを行う前にセキュリティアップデートを行わなければならないケースもあります。

そんな場合に選べるオプションが登場しました。macOS Tahoe を使い続けながら、必要なセキュリティ設定だけをアップデートすることができるようになりました。

これにより、セキュリティアップデートを確実に適用しつつ、準備が整ったタイミングで計画的に OS アップデートを実施できます。

エンドユーザへの通知

最後に、アップグレードによってデバイスで何が起こるのか、そしてどのような形で協力して欲しいのかについて、率直かつ高い透明性を持ってエンドユーザに定期的に伝えましょう。これは、アップグレードのプロセス全体を通して常に意識すべきことです。

いつアップグレードできるのか、どのようなプロセスになるのか、またはなぜすぐにはアップグレードできないのかといったことに関して、エンドユーザと双方向のコミュニケーションを維持することでプロセスがスムーズになります。

また、このようなコミュニケーションが、この案件に関して発生するヘルプデスクへの問い合わせの削減につながるというメリットもあります。さらに、これらの要望や問い合わせに先回りして対応することで、エンドユーザの満足度を高められるだけでなく、いずれ協力が必要になった際にも積極的に関与してもらいやすくなります。

あらかじめエンドユーザに伝えるべきこと

1. アップグレードにかかる時間について予備知識がないエンドユーザもいます。アップグレードにかかる平均時間と実行する最適な時間帯についてユーザに知らせておきましょう。
2. アップデート前にデバイスをバックアップをするよう勧めましょう。ローカルだけでなく iCloud のバックアップも行っておく必要があります。
3. 決められた日から30日以内にアップデートする方針を固め、それが行われない場合はIT管理者側で実行することを通知しておきましょう。PCIDSSのコンプライアンスでは30日以内のアップデートが要件となっています。

メールやイントラネットで、またはSelf Serviceのアプリ経由で、OSのアップグレードの前に時間に余裕を持って警告と推奨事項の通知を行っておきましょう。最終的にはそれがエンドユーザのためになります。



アップグレードによる機能強化のメリットを享受する

macOS Tahoe は、より柔軟でカスタマイズ性に優れたデバイス環境を実現するために、機能やワークフローが強化されています。

シームレスなアップグレードプロセスを実現することは、セキュリティ対策の徹底、正確なシステム資産管理、ダウンタイムの削減を実現するだけでなく、IT部門への信頼や社内評価の向上にも貢献します。Appleデバイスの管理に特化したソリューションがあれば、エンドユーザの利便性を損なわず、IT部門への負荷も最小限に抑えながら、最新のApple OSに対応するための必要な機能が備わります。

Jamfは、エンドユーザの体験を損なうことなく、OSアップグレードを含むAppleのライフサイクル管理を自動化することのできる、唯一の管理およびセキュリティソリューションを提供しています。また、20年以上にわたりApple製品のサポートに力を入れており、新しいOSが発売されたその日からサポートと互換性を約束しています。



トライアルに申し込む

または、販売代理店までお問い合わせください。